JAITI 25

Japanese Agricultural Inservice Training Institute Foundation

JAITIとは、「財団法人日本農業研修場協力団」の英文、Japanese Agricultural Inservice Training Institute Foundationの頭文字の略で「ジャイチ」と呼びます。1989年、農業を生活基盤とする、開発途上国の農村地域社会の人々が、「生きる根幹」の食料を安定確保することで、生活の中に基礎的な教育と公衆衛生に目を向けるゆとりを持ち、健康で、自立心豊かな地球上の「友」になることを願って、活動が展開されています。

発行事務所　(財)日本農業研修場協力団
〒386-0502 長野県小県郡武石村沖456
TEL.0268－85－3465　FAX 0268－85－3583
東京連絡所　〒113-0031 東京都文京区根津1-19-3(小林栄)
TEL.03－3828－9263　FAX 03－3828－9262

今日のジャイチ

はじめまして。二〇〇三年一月からジャイチに加わることになった鎌田です。

ジャイチは一般にはそれほど有名というわけではありませんが、国際協力やネパールの関係者の間では、その堅実な仕事振りが評価されています。綿をすえた取り組みによって、農業の分野でイチゴ栽培を地場産業にまで育て上げ、基礎教育の分野で貴重な教育の機会を提供してきました。また、財団設立者による継続的な寄付だけでなく、二千名を超える人たちがさまざまな形でジャイチを支えています。

そのジャイチの活動をさらに発展させていくために、私が多少なりともお手伝いできることとして、以下のことを提案しています。

1　開発マネージメントの方法論の導入（モニタリング・評価の体制づくり、計画手法の導入）

2　組織のミッション（使命）自体を進化・深化させる（農業や食料は基本としつつ、さらなるパイオニアワークを目指す）

3　先見性があり、かつ効率性や効果が高い新規事業を開始する（ネパールに限らず、他の開発途上国にも広げる。例えばインド、モンゴル、チベット（中国））

4　他の団体とのパートナーシップを積極的に組む。

5　今までの活動の総括を行う。

6　現在行なっている現地事業は、自立や質の維持・向上のための支援に取り組む。

1の目的は、事業計画を今まで以上にしっかりとつくることによって、何がどのように行われようとしているのかを、もっと多くの人が共有できるようにすることです。現地の社会・文化状況に対する理解をさらに進め、現地の人の意見やアイディア、熱意を元種とし、それを外部者である私たちが支援していくというような協力のあり方を進めるということでもあります。

2は、ジャイチが今後何を目指し、何を達成するために活動するのかということを改めて問い直し、今までこれがジャイチの存在理由と思われてきたことをさらに並げたり深めたりする必要があるのではないかということです。

3は、時代の先を見通し世の中のためになることのために献身的に働いている優れたリーダーをネパールやそのほかの地域で見出し、その人たちと協力することによって、他ではあまりまだやられていないような先進的で優れた事業を新たに展開していきたいということです。

以上のことを進めていくには、ジャイチだけで何とかしようとするのではなく、目的や志を共有できる人や組織と対等な立場で、積極的に手を組むことが望まれます。

そして新たな展開を図るためには、今までやってきた活動がどうだったのか、継承すべきことは何か、修正すべきことは何かということをしっかりと把握・認識しなければなりません。ざっくばらんな話合いを、これを託されているジャイチの関係者の間で進めていきたいと願っています。

ネパールで今まで行ってきた事業のうち、農場は現地の人による自立的な経営ができるようになり、農場長ラクパさんが土壌専門家の技術指導や現地スタッフのマンさんの助力で、技術面での改善や生産・流通体制の拡充に取り組んでいます。

それに比べると、学校の方は財政的な自立のための取り組みが少しづつしか進んでいません。

今年も国際ボランティア貯金から助成金百十九万円をなんとか得ることができましたが、一年生から十年生までの三百人の子どもたちが一年間学ぶためには外部からの支援金が二百三十万円ほど必要です。財政的に持続可能にするためには、現地の人たちと日本の人たちが協力しあってそれを支える仕組みをつくっていかなければなりません。それと残念なことに初めての卒業生を送り出す前に行われた大学入学資格試験（SLC）の結果はあまりよくなく、教育の質の向上のために甘い幻想を捨てて厳しく取り組んでいかなければなりません。

このように、現在行っている事業はそれぞれ課題を抱えており、ジャイチとしては少なくとも当面は引き続き農場と学校を現地活動の軸として、支援していく必要があります。

みなさまの信頼のご支援、ご協力をお願いする次第です。（事務局長　鎌田）

先生と父兄代表による学校自立に向けての話し合い。今後は定期的に行う予定。

ネパール事務所の電話・FAX番号が変わりました。
電話　4781980
FAX　4782219

新任理事

三月二日に開催した評議員会において、二名の方が新任されました。

任期は、平成十六年三月三一日迄

・鎌田陽司　（常務理事・事務局長）神奈川県川崎市
・山田祐彰　東京都府中市

鎌田陽司氏紹介

現在三九才。一九九八年迄、東京のヒマラヤ保全協会事務局長。ネパールのNGO関係者には知名度高い。その後、自己研鑽に、一年間英国留学後、インドに研究調査で一年半滞在。英語九級、ネパール語日常会話級。四月より、常務理事・事務局長を担当。（菊池）

(財)日本農業研修場協力団収支報告

2002年4月－2003年3月（単位千円）

1. 収入の部

①基本財産運用収入	484
②支援者寄附金	10,591
③公的機関よりの寄附金・助成金・支援費	3,173
④財団設立者小林栄寄附金	4,600
⑤現地研修視察事業収入	2,254
⑥その他の収入	16
⑦前期よりの繰越金	262
合　計	21,380

2. 支出の部

①国内事業費	2,899
②国外事業費	12,102
③国内事務局運営費	4,414
④基本財産へ組入れ	280
合　計	19,695

3. 次期への繰越金 …… 1,685

診断するチベット伝統医

チベット伝統医療復興支援

チベット伝統医療の知識と技は、アムチと呼ばれるチベット伝統医たちによって継承されてきています。ネパールにおいては、伝統の伝承はほとんど親から子へ、あるいは弟子入りの形態をとってきました。しかし二〇世紀において、その伝統が途絶えてしまう事態が進行しました。ムスタン郡、ドルポ郡、ムグ郡などでは伝承が続いていますが、エベレストの麓のソル・クンブー郡、アンナプルナ北麓のマナン郡、西ネパールのフムラ郡などにおいて、途絶えてしまったと言われています。

チベット伝統医療の復興という大きな課題を実現するためには、様々な課題があります。

大きく分野で分けると、(1)医療…ヒマラヤ最僻地での医療サービスの向上、(2)教育…伝統医養成のための教育、トレーニングの充実、(3)環境…薬草の保全と活用、(4)文化保全…伝統医療の知の記録、の4つがあります。

また、これらの課題実現のためには、(5)当事者間の問題解決ネットワークの構築、(6)政府の公的認知と支援の獲得、などが必要です。

今年から始まる二ヵ年計画のおいては、「伝統医療の知の伝承システムの改善と記録保存」に焦点を当てたプロジェクトを計画しています。伝統医の教育カリキュラムの改善と標準化、チベット伝統医学の公的認知の促進、伝統医養成のための教育（教育機関によるものと伝統的師弟関係によるもの）の研究、高齢の伝統医の知の記録保存、ヒマラヤ諸国（ネパール、インド、ブータン、中国）とモンゴルにおけるチベット伝統医養成機関のネットワーク化と協力の促進がその目的です。

チベット伝統医療の復興とは、単なる保存でもリバイバルでもありません。現代という文脈における伝統医療システムの再構築であり、伝統に基づく新たな創造です。そこで鍵を握っているのは伝統知の継承と発展であり、そのために知的な交流と創造的営為が必要とされているのです。ジャイチもその支援の輪に加わることになりました。

（鎌田）

ジャイチの活動継承

◆任意団体から法人へ

一九九二年（平成四年）任意団体で活動していたジャイチを、財団法人にした時点で、ジャイチの活動を永続的に実施する方向が、確りと決定しました。

当然のことながらこの時点より、将来を見据えて、組織体で活動可能な態勢の構築に取組み開始し、事業は「人」の観点も含めて、ジャイチの活動を、事務局所在地の地域ぐるみの活動に展開しようとの位置付も打出され、理事・評議員に、地域の方々に次々と加わって戴き、組織が組織として活動する英知の集積も図り、活動現場を支える事務局員の増強もボランティア参加の人に委ねて実施してまいりました。

無から始まる法人の草創期段階の活動としては、概ね合格の域で事業推進は出来ております。

◆事務局員の後継

要は、世代交代の必然性です。法人は永久であり、活動期限はありませんが、事務局員には寿命があります。又、時代の流れに添う変革も必要であり、人の活動域能力の適性も含め、財団法人化後、事務局長の後継者育成に努め、今日迄に何人かの人に、有給で、ボランティアで参加願ってまいしたが、完全に継承する迄に到りませんでした。

そうこうする内に、初代事務局長を担当した私（菊池）も、動物である人間の大転換点、還暦を迎え、理事会の度に、事務局長の辞任を懇願し、昨年（平成十四年）四月から念願通い、一理事の立場になって、事務局の円滑運営に努力してまいりました。

◆継承されたジャイチ活動

今年一月より、現、常務理事・事務局長鎌田陽司が就任しました。一頁の略歴紹介通り、NGO活動の実務経験豊かで、ネパール事情の精通度も日本では抜群、しかも年齢は心身共に目一杯活動可能な年代です。安心して運営を託し、その中で、十五年後、二十年後の後継者育成を念頭に置いて貰う要請もしました。

急提ジャイチに加わった丈に、それ迄、彼が取組んでいた活動の継続も必要ですから、役職名通りに、武石村の事務局に常駐はしませんが、常にパソコンを携帯して行動しますので、連絡態勢は万全で、この半年間の業務が順調に推移したことで証明されてます。

尚、私は自宅が事務局の隣りのこともあって、潤滑油・雑手役として業務補佐をすると共に、ご来局の皆様をお待ちしております。

（菊池）

私の夢、私の村、私の国

私は確たる目的意識がない一学生に過ぎませんが、私の夢は読み書きのできない村人に教育の灯をもたらすことです。この国では開発の名の下にたくさんの汚職が行われていて、公正さを欠いています。若い世代は健康のことをよく考えずに悪い習慣に染まっています。

そのような無駄でよくないことばかりしている人が心をよい方向へと向けるように私はいつも心がけているつもりです。あとで後悔するようなことをすべきではありません。

子どもたちの人権を認めることも重要なことだと思っています。ですから子どもを卒なる労働力として扱うようなことは止めさせたいです。それができれば、私の村や国はもっと発展するでしょう。

教育を受けた人は村を出て行ってしまう傾向があります。そんなことでは、教育が足りないために苦しんでいる村人たちがどのように村を発展させていけることでしょう？私は村に残ります。そして、地域社会とそこに住む人びとのために、小規模な家内産業をいくつか興して仕事の場を提供できるように努めます。

私はまた科学的方法に基づく農業教育を村の農民に与えることによって、農業生産の向上にも努めたいと思っています。このような夢を私は今持っています。状況が私に味方してくれるかどうかはわかりませんが、私は固い信念と献身の念を持ちながらベストを尽します。

ニマラ・ルンパさん　女子
パシュパント学校10年生
16歳　ジルガリ村

カカニ農場の近況

一月と四、五月にカカニ農場へ行ってきました。農場の近況をお知らせします。

◆最寒期のイチゴ

今年の冬は世界的に寒波のニュースの多い年でしたが、ネパールも例外ではありませんでした。

一月十一日から十五日まで連続して寒波の底で、イチゴ、地表面とも霜で真白でした。このため、ポリマルチ被覆しなかったイチゴは葉が赤化、やっと生きているような状態でした。

ポリマルチ被覆したイチゴは地温が三一五℃高かったため、成育旺盛で開花、結実とも良く、現地スタッフによると三倍以上の収量差とのことでした。

初めて試験したポリマルチ栽培が予想を大幅に越える好結果となり、大変喜ばれました。一般の農家はまったくの路地栽培で、厳しい結果となりました。

◆イチゴの防寒対策

ポリマルチ被覆効果の真いことはよく理解してもらえましたが、さらに夜間の地上部の保温ができれば一層生産性が向上することは明白です。

そんな折JAITI新聞を見られた大阪の(株)トータル・クリエーションの岸井社長さん並びにカネボウ合繊(株)グループのご理解、ご協力でトウモロコシのデンプンから得られる乳酸を原料とした不織布ラクトロンを提供いただきました。

農業用被覆資材として注目の新資材で、本年はこのラクトロンを使用して地上部の防寒試験とマルチ被覆試験に取り組むことにしました。ラクトロンは自然循環型(大地に戻る)資材であり、廃プラスチックゴミ対策に悩むネパールでは待ち望んだ資材です。

◆霜害

二月下旬ごろからの気温の上昇とともに路地イチゴも生育旺盛となり、花も多く咲き、農家はこれからと期待していた所、三月中旬と下旬に霜が降り、大きな被害を受けました。

四月二十三日に私が行った時には大分回復しており、農場では日量三〇一四〇kgぐらいの収穫量でした。

この時期のネパールは急速に気温が上昇、生育が早いため小玉で、日持ち、味とも悪く単価も低下、ほとんど加工まわしです。

苗取り母株については収穫を打ち切り、苗取り準備に入りました。

霜害は、二年連続です。以前にもありましたが、決定的な対策のないのが実情です。気象変化に細心の注意を払い、怪しい時にトンネルがけなどの対策を考えねばなりません。

カカニの丘(農場より3km)よりマナスル(左)ガネッシュヒマール(右)を望む

◆イチゴ苗の更新

ネパールへイチゴを導入、一〇年ほど経過して生産性が年々落ちてきています。連作障害も考えられますが、土壌消毒剤入手の可能性はほとんどありません。

輪作、堆肥の施用などで対応していきます。

苗の老化も原因のひとつですので、本年は日本よりウイルスフリー苗を導入、苗の更新を進めます。

◆サツマイモ

昨年ポリマルチ被覆試験で好結果を得ましたので、本年は全面積にポリマルチ被覆することにしました。

ポリマルチ栽培(左)と露地栽培(右)の比較

今までは六月上中旬の植つけでしたが、早植えほど早堀りが出来て高値格ですので、五月下旬までの植えつけを指示してきました。

◆キウイフルーツ

五月上旬の状況ですが、剪定もよくスッキリした樹形で、生育ステージはつぼみの状態でした。

隔年結果性が強く昨年は裏年でしたが、それを防ぐため六月上旬の摘果の徹底を指示してきました。

◆ポリマルチのこと

ネパールには農業用に使用するポリマルチはなく、包装用と思われるポリエチレンを代替使用しましたが、結果は一作でボロボロ状態です。明らかに太陽光線に弱く面白ほど傷みます。

日本から試験用に持ちこんだポリマルチは何ともありません。現地で日本製と同じようなポリマルチ製造を依頼しましたが、売れる見込みがないのか、技術がないのか、駄目でした。

中国あるいはインドからの輸入を考え、いろいろ当たってもらっていますが、今のところ輸入ルートがはっきりしません。

しかしポリマルチ被覆は生育、収量、除草・潮水労力、病害、着色などすべての面で優れることから輸入ルートがみつかるまではボロボロになることを承知でネパール製を使うことにしています。

◆ネパールの日常食

ネパールで日本の定食に相当するのがダルバート・タルカリ(略してダルバート)です。ダルは豆のスープ、バートはご飯、タルカリはカレー味の野菜のおかずです。これにアチャールという漬け物がつき四種類で構成されます。高級になると鶏肉がつくようです。

町の食堂、ドライブイン、山のロッジなどどこでもあるネパールの国民的定食です。食べ方はご飯にダルをかけ、タルカリとアチャールを右手指先で混ぜ合わせて食べます。指をなるべく汚さないのが上品だそうです。

外国人だとスプーンをつけてくれるので心配ありません。長年ネパールに居たことのあると言うアメリカ人が指先で器用に食べていました。スプーンを使っていた私に「ダルバートは指先で食べてこそ本当の味、スプーンを使うのは邪道」とのことでしたが、日本人の感覚として手で食べることには抵抗があります。

お代わり自由、食べ放題が基本でプギョ(もう充分です)と言わない限り補充してくれます。

◆エンドウ豆の食べ方

日本ではエンドウ豆は莢ザヤで収穫して煮物や味噌汁に入れるなどの食べ方が普通です。ネパールではほぼ完熟するまでおきます。

日本の枝豆やグリーンピースの感覚です。それをゆでて、いろいろな食べ物に使用しますが、緑色がさえ美味です。

カトマンドゥの青果市場を見る機会がありましたが大量に出荷されていました。日本でも試して見たい食べ方です。

(農業指導員　土屋博亜)

ネパール定食　ダルバート

第十四回 ネパールの農場と学校訪問の旅 参加者募集

エベレスト初登頂五十周年にあたりネパールも活気づいています。名所ルンビニも加わりました。この記念すべき年にネパールを訪れてみませんか。

◆日程　十一月九日（日）～十九日（水）十泊十一日旅程　関空から同日カトマンドゥ着　翌日よりカカニ農場～ポカラ（ミニトレッキング）～ルンビニ～チトワン国立公園～ダマン～バシュパント学校～カトマンドゥ（マウンテンフライト）と移動します。十八日深夜カトマンドゥ発。十九日関西空港へ戻り。

◆費用　二十六万円。全行程中の移動手段（航空機はエコノミークラス）、宿泊費、食事代（飲み物は除く）を含む。日本国内の空港往復の交通費と、海外旅行傷害保険は含まれていません。

◆参加条件　一～二時間散歩が可能な方。海外旅行傷害保険加入。

◆最小催行人員　十八名

◆申込方法　電話・ファックスにてお問合せ下さい。後日、申込書と詳しい旅行条件を記載した書面をお送り致します。

◆申込期限　八月二十二日（金）定員になり次第締切。

◆農場と学校訪問についてのお問合せ　企画　㈱ジャイチ　事務局　豊田
☎〇三六八―八九―二四六五
FAX〇三六八―八九―二五八二

◆お問合せ・お申込み
主催　㈱西遊旅行
国土交通大臣登録旅行業六〇七号　㈳日本旅行業協会正会員
〒一〇一―〇〇五一　東京都千代田区神田神保町二―三―一岩波書店アネックス五階
☎〇三―三二三七―一三九一
FAX〇三―三二三七―一三九六
一般旅行業取扱主任者
黒岩陽一　担当者　宮先崇

バシュパント学校より二人目の留学生来る

昨年に続き今年度も、長野県のアジア高校留学生受入事業で、バシュパント学校より二人目の留学生、ウッタム・タパ君が五月二十七日に来日しました。

六月三日、早速ジャイチの事務所を訪問し、元気な顔を見せてくれました。

そして、地元の飯田深南部中学校（通学カバンの寄付をいただいている。）も表敬訪問しました。

急な申入れにも拘らず、校長・教頭・担当の宮沢先生が快く受け入れて下さり、生徒会の皆さんの案内で、授業を参観（参加？）したり、校内を見学したり、とても楽しい時間を過ごすことができました。取分け、校長室に貼ってありましたヒマラヤ連峰の写真は、初めて国外に出た彼にとって、自国の写真は嬉しかったようです。

ウッタム君は、夏休みまで長野市内でホームステイして、長野西高校で日本語を習得します。その後木島平村に移り、下高井農林高校に学ぶ予定です。（事務局）

飯田深南部中学校でネパールの説明するウッタム君

『ラダック　懐かしい未来』
新しい「開発」のアプローチへのヒント

この本は、ヒマラヤの辺境ラダックにおけるつつましくも豊かな暮らしと、そこに襲いかかった近代化と開発、グローバリゼーションの嵐の中で、自らの未来を創り出そうとする人びとの記録です。ラダックに息づいている歴史に磨かれた文化と知恵こそが、未来への鍵となるということが示されています。

開発や近代化に伴う破壊が行き過ぎてしまい、「先進国」もかなり抜本的な方向修正が求められている今、「先進国」と「開発途上国」はともに協力して新たな方向性を創り出していく必要があります。国際協力のあり方というのも、今後かなり抜本的に変わっていくことでしょう。国際協力に携わっていると、むしろ私たちの方が学ぶべきことが多いことに気づきます。

鎌田は、ラダックに一年間滞在して著者ヘレナが現地で進めている活動にも参加し、またこの翻訳のための委員会の代表を務めました。ぜひジャイチ事務所に購入申込をお願いいたします。一割引で提供します。（送料はご負担ください。）

著者：ヘレナ・ノーバーグ・ホッジ、訳：「懐かしい未来」翻訳委員会、出版：山と溪谷社、定価一六八〇円（税込）（事務局）

ご協力有難うございました

二月東京電機大学中学高等学校（東京都小金井市）、四・五月世田谷オープンマーケット（東京都世田谷区）、四・五月　根津バザー（東京都文京区）五月佐久病院祭（長野県臼田町）

ご寄附のお願い

ジャイチの活動を何時も心に留めて下さり、感謝申し上げます。

運営されている財源その他について説明を致します。ご協力をお願い申し上げます。

1. ジャイチ基金……他団法人ジャイチの基本的財源の確保
2. ジャイチ維持費……ジャイチの運営維持費
3. ジャイチ事業費

新たに大きい費用のかかる事業を計画した時にその応援費用として確保することを目的としています。

振込先　番号｛郵便振替　00510-4-65434
銀行振込　八十二銀行丸子支店（普）420677｝
口座名　財団法人日本農業研修場協力団
住　所　〒386-0502　長野県小県郡武石村字456
電　話　0268-85-3465　FAX 0268-85-3563

尚、金額に関しては規定がございませんので、お独りお独りご自分でお決め下さいますようお願い申し上げます。（例えば、収入の1%を、小遣の1%を、的な考えは如何でしょうか。）

古切手・使用済カード収集続けています。

切手の回りに五ミリの余白を残して下さい。

送付先　〒一五八―〇〇八四　世田谷区東玉川一―一〇―二〇　安藤雅子

物故者のお知らせ

支援者の方で、当方で把握している物故者を掲載致します。ご冥福をお祈りしますと共に、感謝致します。

三浦信吾様　十五年一月（東京都世田谷区）
由井直人様　十五年一月（東京都文京区）
奥田邦雄様　十五年二月（千葉県千葉市）
西東稽司様　十五年二月（北海道羅臼町）

編集後記

ジャイチは、新たな方向に枝葉が出てきたようです。これまで同様協力者の皆様と共に、ゆっくりと時間をかけてひとまわり大きな木に育ってゆけばよいと思います。

ところでこのニュースレターは現在約四千部印刷されています。そのうち二千余通が皆様の元へ郵送されます。この発送作業に人手が足りず苦慮しております。お手伝い可能な方はお願いいたします。一月上旬と七月上旬です。（武石村　堀）